山梨市立笛川中学校

研究主題

主体的に学習に取り組む生徒の育成
～対話を通した効果的な学びを目指して～

Ⅰ　研究の内容

1　言語活動の充実

（1）主体的・対話的で深い学びを意識した継続的な授業実践（一人一実践授業）

（2）日常的な取組（生活ノート指導，学活，各教科指導　等）

（3）効果的に新聞を活用した実践（NIE）

2　効果的な学びの過程を重視した学習活動

（1）ICT機器を使った授業実践・理論学習

（2）特別の教科道徳の授業実践・理論研究

（3）算数・数学教育や英語教育における小中の交流

3　望ましい学習集団づくり

（1）保護者や地域・小学校との連携（家庭学習他）

ア　「家庭学習ノート」のレベルアップを図る

イ　家庭学習について，保護者にも協力を呼びかける。

ウ　学習規律や板書方法などを確認して徹底する。

（2）Q－Uの分析と結果を活用した取組

Ⅱ　成果と課題

1　一人一実践授業について

右の図のような教科ブロックに分け，ブロックごとに，いつ誰が授業業提案をするのかを5月に設定した。また，それぞれのブロックで教科の特性を生かした「対話」のとらえ方を統一し，授業への取り入れ方を決めた。それらを，下のような参観シートとし，他教科の先生方が参観する上での視点とした。

一人一実践　参観シート

2019/9/26(木) 5校時　国語科　小野先生

参観の視点		
① 対話を通した効果的な学びはどうであったか	教科としての対話のとらえ方 様々な形態での話し合い活動による，課題解決学習	
② 授業への取り入れ方はどうであったか	教科としての取り入れ方 対話の必然性のある課題やタスクを教師で選定し，ペアや班単位など小グループの仲間と協力して活動させる	

ブロック	国・社・英	理・数	実技教科
7月授業者	古屋友	田草川先生	萩原先生 武藤先生
9月授業者	小野先生	筒井先生 永関先生	
12月授業者	古屋勝先生		
対話のとらえ方	様々な形態での話し合い活動による，課題解決学習	会話だけでなく，聞いたり見たりすることでも考え方が変容したり，違う視点で考えたりできる活動も対話的と捉える	表現活動を通して（互いの音を聴く，動きを観察する等）
授業への取り入れ方	対話の必然性のある課題やタスクを教師で選定し，ペアや班単位など小グループの仲間と協力して活動させる	予想や考察の場面で，グループ活動や発表の場を設定する	1対1，あるいは小グループ，全体など
備考	丸山先生は，小学校の授業		

○細かな日程は，校長先生や教頭先生，教務主任と相談のうえ決めて下さい。決定次第，古屋友までお知らせください。授業1週間前までには決定をお願いします。

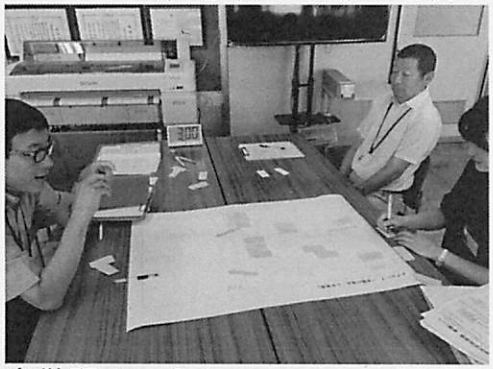
○日程詳細が決まったところで，古屋友で全体にアナウンスします。お知らせボードも活用したいと考えています。学習指導案（略案）の配布は，先生方各々でお願いします。

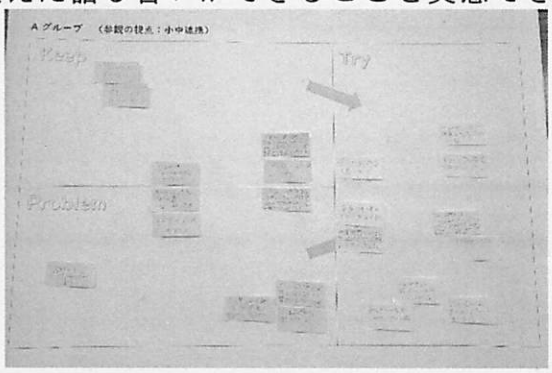
○授業参観は，その時間に空いている先生方でぜひお願いします。なるべく一人2回は参観できるようにお願いします。

早めに授業時期の設定をすることで，計画的に一人一実践を進められたことは成果の１つである。また，参観の視点を設けたことで，他教科の先生方が参観する時の負担感を少しは和らげられたかと感じる。課題は，授業のアナウンスが徹底し切れなかったことと，全教職員が最低２回は参観するということが達成できなかったことである。一人一実践の裏では，自習体制をとらずに普段の授業を行っており，参観が難しい面もあった。

2　数学科研究授業

総合教育センター冨士池指導主事を招き，9月25日に２学年数学科の研究授業を行った。学習指導案の検討や修正は，校内研内での模擬授業を通して行った。この研究授業は，次期学習指導要領の３観点での評価基準を取り入れ，小学校からの内容のつながりを意識した内容となった。授業後の研究会では，振り返りフレームワークである「KPT法」による話し合い形式とし，活発な意見交換ができた。話し合いのツールがあることで，教科や年齢の垣根を超えた話し合いができることを実感できた。

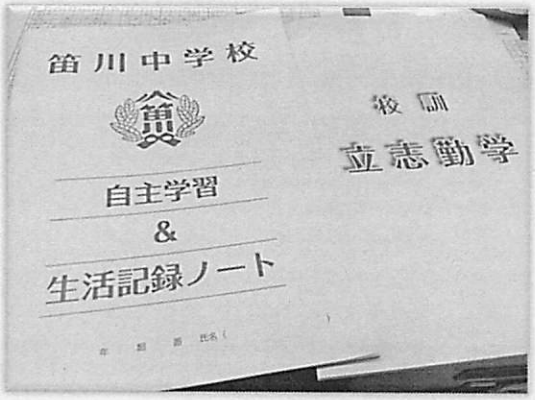


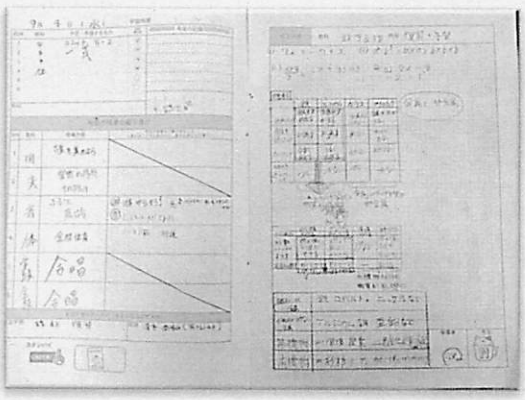


3　家庭学習ノートについて

『やまなしスタンダード』（７）に「家庭学習（宿題や課題）と授業が，有機的に結びついている」とあるように，日々の学習を振り返らせるツールとして，笛川中学校オリジナルの家庭学習ノートを作成し，２学期から使用を開始した。生活ノートと一体化することで，担任の負担感を減らすこと，またどの教師でもノートのチェックができることが大きな利点である。

異学年でのノートの交流として，生徒玄関に拡大掲示をしている。１回目は教師側でどこが良いのか，の具体を示し，ノートのより効果的な使用法を共有することができた。２回目は，生徒同士で上手なまとめや真似したい点を付せん紙に書き，貼っていく方法をとった。お互いを認め合う場，また切磋琢磨できる場としての掲示となっている。小学校からの同様の形式での振り返り学習を続けており，全員が毎日提出する，という習慣化はできてきている。しかし，依然として内容の差があるため，今後は振り返りをより深めるためのノートの使用法を，全校体制で指導していきたい。





Ⅱ　成果物

数学科学習指導案，一人一実践，Q-U分析結果，自主学習ノート（研究主任　古屋友香）